

【京都国立博物館】(計15件)

<絵画> (4件)

1 名称	重要美術品 山水図 (じゅうようびじゅつひん さんすいず)	品質	紙本墨画淡彩
作者等	江西龍派・心田清播賛 伝周文筆	員数	1幅
時代	室町時代 15世紀	寸法等	98.5×42.5
作品概要	現存数のごく少ない15世紀前半の詩画軸の中でも、周文様式を正しく伝える極めて希少な数点のうちの1つとしてよく知られるもの。同時代を代表する建仁寺の詩僧、江西龍派・心田清播の自筆の賛も備わる。京都にありながら正系の周文様式の作例を1点も有しない当館において、中世水墨画展示のコアとなり得る優品。上野家旧蔵品。		
購入金額	66,000,000円		



2 名称	山水図 (さんすいず)	品質	紙本墨画淡彩
作者等	鑑貞筆	員数	1幅
時代	室町時代 16世紀	寸法等	115.0×31.9
作品概要	16世紀前半の南都で活躍した画僧、鑑貞の山水図 (瀟湘八景図対幅の左幅か) で、小品中心に30点ほど見出されている鑑貞画の中でも大きく、描き込み入念な円熟期の優品である。鑑貞は、狩野派や雪舟派が広く活躍した戦国期の画壇を知る上で重要な存在で、その基準作の一つである本作は、当館の中世水墨画展示において活用機会が多々見込まれる。		
購入金額	27,500,000円		



3 名称	八尾狐図 (やおのきつねず)	品質	紙本著色
作者等	狩野探幽筆	員数	1幅
時代	江戸時代 寛永14年 (1637)	寸法等	縦109.3cm 横56.3cm
作品概要	徳川家光が夢に見た狐を、狩野探幽に描かせたことが史料上から判明する稀有な作品である。家光自筆の日付および黒印、寛永寺開山天海筆の年号、さらに浅草寺別当忠尊の裏書をとまなう。将軍およびその側近と御用絵師との関係を示す点できわめて貴重であり、歴史的意義も高い重要作品である。		
購入金額	80,000,000円		

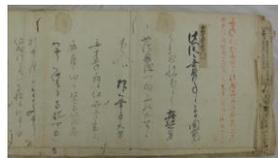


4 名称	源氏物語 葵絵巻 (げんじものがたり あおいえまき)	品 質	紙本著色
作 者 等	不詳	員 数	6巻
時 代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	第一巻 縦35.4cm 長1240.4cm、第二巻 縦35.4cm 長996.7cm、第三巻 縦35.4cm 長1246.3cm、第四巻 縦35.4cm 長1248.3cm、第五巻 縦35.4cm 長1297.8cm、第六巻 縦35.4cm 長1375.6cm
作品概要	『源氏物語』本文のすべてを詞章とする、きわめて異例かつ豪華な絵巻で、古典籍収集家の杉原盛安が制作を企図したいわゆる盛安本、幻の源氏絵巻とも呼ばれる作品群の一部。六帖分が国内外に分蔵されるが、断簡となっているものも多く、六巻がまとまって伝わる点で貴重。南部家伝来。		
購入金額	60,000,000円		



<書跡> (1件)

5 名称	古文書 附 文書袋 三点 (もんじょ つけたりもんじょぶくろ さんてん)	品 質	紙本墨書
作 者 等		員 数	18通
時 代	鎌倉～室町時代 13～16世紀	寸 法 等	細目は作品概要を参照
作品概要	<p>鎌倉時代から室町時代にかけての古文書18通。宛所に統一性はなく、発給者は①西園寺家、②名家 (日野家・柳原家など)、③外記 (中原家・小槻家) に大別され、まとまりごとに紙縫りで綴じられている。それぞれに対応する文書袋が付属し、これらは加賀前田家のもので、同家により蒐集された文書群の一部であることが明らかとなった。すべてがウブなことに加え、従来、ほとんど内容が知られておらず、とくに西園寺公衡を中心とする鎌倉時代の文書は、当該期の朝儀や政治状況を知るうえで注目される。細目は以下の通り。</p> <p>●第1綴 ①西園寺公衡書状 (縦33.3cm 横105.7cm)、②西園寺公衡書状 (縦33.9cm 横101.9cm)、③西園寺公衡書状 (縦34.3cm 横74.5cm)、④西園寺公衡書状 (縦34.1cm 横81.6cm)、⑤西園寺公衡書状 (縦32.3cm 横100.0cm)、⑥某書状 (縦33.5cm 横95.2cm)</p> <p>●第2綴 ①柳原資明書状 (縦30.3cm 横95.1cm)、②日野行光書状 (縦29.5cm 横44.8cm)、③土御門資家書状 (縦27.6cm 横42.5cm)、④坊門信経書状 (縦32.1cm 横40.2cm)、⑤後嵯峨上皇院宣 (縦28.4cm 横38.4cm)、⑥柳原資明書状 (縦31.0cm 横47.1cm)、⑦日野資冬書状 (縦33.3cm 横48.3cm)</p> <p>●第3綴 ①中原師世書状 (縦29.4cm 横42.6cm)、②小槻周枝書状 (縦28.1cm 横42.8cm)、③中原師象書状 (縦25.5cm 横41.1cm)、④久我長通書状 (縦30.4cm 横44.6cm)、⑤中原清種書状 (縦32.1cm 横50.6cm)</p>		
購入金額	15,000,000円		



<金工> (1件)

6 名称	[重要美術品] 刀 銘丹波守吉道 (かたな めい たんばのかみよしみち)	品質	鉄製 鍛造
作者等	丹波守吉道 (初代)	員数	1口
時代	桃山時代 17世紀	寸法等	刃長75.1cm、反り1.5cm
作品概要	桃山時代の京都の刀工・丹波守吉道の手による打刀。吉道はこの時代を代表する刀工集団三品派の一人で名工の誉れが高い。本品は吉道の最高傑作として古くから知られ、唯一の重要美術品に認定されている。特筆すべきは吉道が考案した打ち寄せる波際のような刃文が明確にあらわれている点で、これは後に「簾刃」と呼称される刃文構成として定着化した。		
購入金額	33,000,000円		

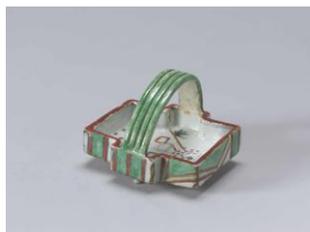


<陶磁> (7件)

7 名称	緑釉鶏頭壺 (りよくゆうけいとうこ)	品質	施釉陶器
作者等		員数	1口
時代	中国・隋～唐時代 6～7世紀	寸法等	高36.7 口径9.3×7.3 底径11.7×11.3 (cm)
作品概要	注ぎ口を鶏頭にかたどった緑釉の壺である。肩部には紐を通すための小さな穴があいた耳がついている。紐孔部分は直しと思われ、当初は把手があったことが考えられる。唐時代の白磁鳳首瓶に造詣が近いことなどから、隋から唐時代初期の頃につくられたものと推測される。底部以外掛けられた緑釉は全体に銀化している。実業家、倉橋藤治郎 (1887-1946) の旧蔵品である。		
購入金額	14,500,000円		



8 名称	五彩織部写手鉢 (ごさいおりべうつしてばち)	品質	五彩磁器
作者等		員数	1口
時代	中国・明時代 17世紀	寸法等	高8.8 口径13.2×12.0 (cm)
作品概要	桃山時代に焼かれた織部焼の向付を手本としてつくられたと思われる五彩手付鉢である。内外には緑と赤を基調にした幾何学的な文様や縄目文、花文などを描いている。手付の部分を緑釉でべた塗りした様子は織部焼の手付鉢を思わせる。こうした様子から織部焼の向付などを手本とし、明らかに日本からの注文によって製作されたものと考えられる。		
購入金額	7,700,000円		



9 名称	五彩花卉唐草人物文鉢「大明年造」銘 (ごさいかきからくさじんぶつもんはち 「だいみんねんぞう」めい)	品 質	五彩磁器
作者等		員 数	1口
時 代	中国・明時代 16世紀	寸 法 等	高11.8 口径27.5 高台径13.1 (cm)
作品概要	内面には花唐草文、外面には仙人や鳥獣を描いた五彩の鉢である。景德鎮窯で焼かれたものと思われる。透明釉を掛けた白磁の上に赤、緑、黄の三色の上絵具を用いて文様を丁寧に描いており、底裏に青花で二重丸枠を描き、そのなかに「大明年造」の銘が記され、脇に「大」と赤絵で記している。のびのびとした筆使いで唐草文や仙人、鳥獣などが描かれており、赤、緑、黄と三色ではあるが、明るく華やかな色彩美をみせる。		
購入金額	6,600,000円		



10 名称	白流彩文三足香炉（しろながしさいもんさんそくこうろ）	品 質	施釉陶器
作者等		員 数	1口
時 代	中国・金時代 13世紀	寸 法 等	高7.3 口径8.3 胴径8.6 (cm)
作品概要	墨流し技法を用い、器面に白い渦状の文様を表した三足香炉である。本作の形状が中国古代青銅器の鬲(れき)の形から変化したものと思われるが、胴の形が袴をはいたようにもみえることから、日本ではこうしたものを袴腰とも呼んでいる。中国・河北省の磁州窯系の窯で焼かれたものと思われる。		
購入金額	3,300,000円		



11 名称	青磁碗（せいじわん）	品 質	青磁
作者等		員 数	1口
時 代	中国・唐時代 8～9世紀	寸 法 等	高3.8 口径15.1 高台径6.3 (cm)
作品概要	中国・浙江省の越州窯系の窯で焼かれた青磁碗である。本作のように高台から口縁にかけて直線的に開き、大きめの高台を持つ青磁碗は、越州窯系の窯で数多く生産されており、平城京、平安京や太宰府などにおいて出土が確認されており、生産された時期とそれほど差がなく日本へももたらされていることがわかる。		
購入金額	2,000,000円		



12 名称	青磁唾壺（せいじだこ）	品 質	青磁
作者等		員 数	1口
時 代	中国・唐時代 9～10世紀	寸法等	高11.3 口径14.6（cm）
作品概要	中国・浙江省の越州窯系の窯で焼かれた青磁唾壺である。国内では平城京、大宰府などにおいて出土事例がみられ、平成24年の調査で福岡県筑紫野市の堀池遺跡の平安時代の墓から、副葬品として完形の唾壺が出土しているが、類例は少ない。平城京や各地の官衙などからは、本作のような越州窯系青磁唾壺を写したと思われる緑釉陶器製の唾壺の出土がみられており、奈良時代、平安時代において唾壺が重要な調度品であったことが裏付けられる。		
購入金額	8,000,000円		



13 名称	三彩枕（さんさいまくら）	品 質	施釉陶器
作者等		員 数	1口
時 代	中国・唐時代 8世紀	寸法等	高5.7 幅12.1×9.8（cm）
作品概要	小振りの唐三彩枕である。胎土は白く、精製されたものを用いている。湾曲した上面には中央と四隅に花文を丁寧に型押しし、側面には斑文を表している。平城京や藤原京、平城京などにおいて本作のような小振りの枕の出土もみられる。		
購入金額	4,000,000円		



<漆工>（2件）

14 名称	象象嵌蒔絵印籠筆筥 笠翁細工 （ぞうぞうがんまきえいんろうだんす りつおうざいく）	品 質	木製 漆塗 象嵌 蒔絵
作者等		員 数	1基
時 代	江戸時代	寸法等	
作品概要	明代の版本『方氏墨譜』所収の古墨「九貢」図から採った象を、堆朱や堆黒、陶片や龜甲の象嵌、密陀絵、漆絵、蒔絵を用いて印籠筆筥の蓋に表した典型的な笠翁細工。笠翁こと小川破笠（1663～1747）は青年期には芭蕉門下の俳人であったが50代後半に蒔絵制作者となった異例の経歴を持つ。異素材の象嵌で中国風を示す明解な様式は19世紀の欧州で人気を博したため模倣作も多く、総じて破笠作ではなく笠翁細工、破笠細工と呼ぶのが一般的となっている。		
購入金額	10,000,000円		



15 名称	紋章入蒔絵飾り皿（もんしょういりまきえかざりざら）	品 質	木製、漆塗、蒔絵
作 者 等		員 数	1枚
時 代	江戸時代	寸 法 等	直径29.7cm 高1.8cm
作品概要	江戸時代中期に来日したオランダ東インド会社の商人が、特注した輸出漆器の一例。おそらく西洋文化圏の錫製の皿の形を模した、平底の皿である。黒地に金蒔絵で、縁に四季の花鳥と楼閣山水図、見込に西洋の盾形の紋章を表す。盾の中には樹木の前を走り抜ける狐を描く。この紋章は19世紀のデ・フォス（キツネの意）家の女性が封蝋に用いた例があるが、デ・フォスは一般的な名であり、家を特定できない。しかし、ピーテル・デ・フォスという名の人物が17世紀末に二度にわたって出島の商館長を務めているため、この人物のための注文品であった可能性が高い。		
購入金額	7,800,000円		

